

01:『美術工芸高校』の創設に向けて

スクールメッセージ

その「わくわく」が、

ありたい未来をソウゾウする。

何気なく暮らす日常の中。たとえば、本を読んだとき、話をしたとき、空を見あげたとき。そんな、自分以外のなにかとつながった「とき」に、私たちは様々な「感情」を抱きます。好きとか、楽しいとか、美しいとか…。

そして、そんな「感情」を言葉として捉える前の、ハッとした瞬間に感じるココロの「ゆらぎ」。この生まれたての「ゆらぎ」は、自分のココロの中で大切に積み重ねることで輝きを放ち、やがて、「わくわく」に成長します。この「わくわく」は、社会に新たな問いを生み人のココロを豊かにする「美術」という営みの源泉であり、皆さんが未来に歩みを進める原動力です。

15歳で、美術の道を歩もうとする皆さんは、表現をすることが「好き」な人たちだと思います。でも、「好き」なことは、必ずしも楽しいことばかりではありません。学びの過程や完成した作品を前に、自分の不甲斐なさに涙することもあります。そんなとき、大きな支えになってくれるのは、同じ志をもつ仲間存在です。

美工は、そんな仲間と出会える学びの場です。また、皆さんと同じ経験をしてきた教員がそばにいます。「好き」なことを通して自分ととことん向き合い、ここで出会った仲間と切磋琢磨しながら、ともに高め合っていく。そして、「美術」を通して、正解のない問いに試行錯誤しながらも挑戦し続けていく。その先に、皆さんの思い描く未来が切り拓かれていきます。

これから予測困難な社会を迎えるといわれています。そんな社会で生きていくために大切なこと。それは美術を学んだ者の強みである「想像」と「創造」です。「想像」とは、なにかを思い描くこと。「創造」とは、なにかを生み出すこと。この2つのソウゾウは、人のココロを動かし、未来に新しい価値をつくりだします。

美工で学んだ生徒には、「わくわく」という、いきいきとした感情を、好きな美術を通して輝かせ、いくつになっても、自分の思い描く未来をソウゾウしていく。そんな人に育ってほしいと願っています。

移転の意義・目的

京都市立銅駝美術工芸高等学校（以下、「銅駝美工」という。）は、明治13年に日本初の公立美術学校として創設された「京都府画学校」を起源とし、開校以来140年以上にわたり、幾多の校名・校地の変遷を遂げながら、国内外の芸術界や産業界で活躍する人々を輩出するなど、日本のみならず世界の文化芸術の発展に貢献してきました。そして、令和5年度には、校名を「京都市立美術工芸高等学校」（以下、「美工」という。）に改称し、同じ起源を持つ京都市立芸術大学（以下、「京都芸大」という。）とともに、京都駅東部の崇仁地域に移転する予定です。

本市として、京都芸大・銅駝美工の移転整備事業は、文化庁の全面的移転を控え、京都駅周辺の魅力あるまちづくりを更に推進するとともに、「世界の文化都市・京都」としての都市格の向上や、文化による社会・経済の活性化、高等学校と大学を一体的に整備することで、文化芸術の創造の拠点としての機能をより一層高めていくことを目指しています。

「美術工芸高校グランドビジョン」の位置づけ

京都市立高校においては、生徒の個に応じた多様な教育活動の展開や、生徒の選択にも対応できるよう、普通科はもとより、探究や工学、芸術などの多彩な専門学科を設置し、将来様々な分野の担い手の育成を図ってきました。令和5年度の銅駝美工の移転は、新しい普通科教育を展開する市立開建高校の創設とともに、平成11年度の市立堀川高校の探究科改革を皮切りとした市立高校改革の「総仕上げ」として位置付けています。銅駝美工は、開校以来、美術専門教育を中心に、関係諸機関や地域等と連携を深めながら、常に時代の状況や生徒の特性、社会からの要請等に的確に応じる不断の改革を行うことで、市民の信託に応える学校づくりに取り組んできました。

こうした中、今回の移転を機に、移転先が京都の玄関口に位置し、京都芸大と隣接するなどの恵まれた環境を最大限生かし、時代を先導する新たな美術工芸高校として更なる飛躍ができるよう、その指針となる「美術工芸高校グランドビジョン」を策定しました。

「京都にある美術専門高校であること」そして、「京都に美術専門高校があること」。この「グランドビジョン」には、これらの意義を踏まえ、美工が新しい地にしっかりと根付き、未来に向けて成長し続け、その存在が人々に力を与え、50年後、100年後も、愛され続ける学校にしたい、という思いを込めました。ここで掲げた美工が果たすべき使命や教育理念・目標などの学校構想の実現に向け、様々な特色ある教育活動を力強く計画的に推進してまいります。

「美工」が果たすべき使命

京都にある美術専門高校である意義、そして、京都に美術専門高校が存在する意義を踏まえ、美工の社会的意義や役割を再定義しました。次の3つの「つくる」の実現に向け、学校構想の具現化を図っています。

- | | |
|----------|--|
| 「美」をつくる | 京都の都市特性を活かした美術専門高校ならではの豊かな学びを実践し、一人ひとりが創造性を発揮して美をつくる学校 |
| 「文化」をつくる | 美術を通して身につけた力で、新たな文化や価値を創造し、次代を切り拓く青年を輩出し続け、「文化芸術都市・京都」の発展に貢献する学校 |
| 「景色」をつくる | 歴史と伝統を踏まえながら、時代の変化と教育ニーズに対応した先進的な教育を展開し、全国の美術教育に新たな景色をつくる学校 |